

一般質問

3月定例会



門 眞一郎 議員

Q 本町農業 どこへ導く

町長は平成25年度施政方針の中で、第1に「地域を支える産業を創出するまち」づくりを掲げ、農林業の振興について推進方策を検討するとしている。

安倍総理がTPP交渉に参加表明している今、どのような変化にも影響を受けない強い農業づくりを行うことが急務だ。

「生命地域飯南町」森林セラピーのまち飯南町は、本町の農業のあり方を考える上で極めて重要な要素だ。本町の姿にふさわしい農業とはいかなる農業であるか、町民に對



作付けが始まったハウス

し、町長は強力なメッセージを発して推進すべきだ。

スケールメリットにより、これまで市場を獲得してきた産地は、TPPによる価格破壊で海外産地にその地位を奪われることが予想されている。対抗策は、付加価値の高い農産物の生産以外にない。生産規模の小さいことは、手法によっては大変な強みになる。

私は、有機農法や自然農法に、本町が取り組んでいくべきだと考えている。

町長は本町の農業をどこへ導こうとしているのか問う。

A 先頭に立って 地域循環型農業 を進める

町長 山崎英樹
生命地域 森林セラピーは、本町農業のあり方を考える上で極めて重要な要素であるという指摘があったが、私もそう思っている。

総合振興計画に、農林業活性化の施策として、環境、地域資源をキーワードに飯南ブランドの確立を図り、循環型農業の普及として、エコ農業の推進、エコ米の生産振興を行っている。



土壌分析の研修

また、重点プロジェクトの一つ、里山産業創造プロジェクトでは、有機農業の推進を掲げ、講演会、研修会や実証栽培などを行う。そして、農業生産のみならず、生命地域、森林セラピーなど、飯南町丸ごと生命地域を実感させるまちづくりを行っていく。

以上のことから、エコロジ―米の生産振興、有機農業の推進、森林セラピー、また株式会社エリーゼの加工玄米をはじめとする町内各企業、事業所との連携による産業振興にスピードを上げて取り組み、先頭に立って旗を振る考えだ。

一般質問

3月定例会



家田 敦彦 議員

Q 協働のまざり合いの 基本は

「生命地域」は、自然環境だけでなく人間社会の多様性を進めることと捉え、協働のまざり合いの「試金石」であると考える。

① 今後、管理職や各委員、自治区長等、女性の活躍の場を増やす考えはないか。

② 若者の発想や意見、能力を積極的に町まざり合いに生かしていくことが必要だ。新庁舎建設に際しても、全国の大学に呼びかけ、コンペによる採用を行うてはどうか。

③ 地域おこし協力隊員が始めた移動図書館は、本の貸し出しというより、地元の方々の本との触れ合いができた証拠だ。U・I・ターン者が顔の見えるような活動を取り入れてはどうか。



A 女性や若者を 活かす施策推進で

町長 山崎英樹

① 本町の男女共同参画の達成率は未だ40%。女性の活動の場が広がるように努力する。

② 若者の意見を聞く機会が少なかったが、今後機会を設けて若者の活用を目指す。新庁舎コンペもユニークなアイデアで参考にする。

③ 協力隊員は他にも地域カフェ等、住民との触れ合いを大切にしている。今後、吉岡長太郎氏のDVDを車載する等、顔の見える活動を推進する。



協力隊員による移動図書館

Q 美しい佇まいで 高校活性化を

飯南の子供たちは、やはり佇まいが違う。佇まいの美しい「人」の育成は不可欠だ。

① 県内中学生の奪い合いではなく、県外生徒の募集を目指すべきだ。伊丹からの夏休み体験は素晴らしいが、お盆明けにしてはどうか。

② 東大が4月から9月へ入学時期をずらすギャンプチームを導入する。この期間に彼らを誘致し、森の中で生命地域を実践させてはどうか。

③ 卒業生の多くから学習支援館に対する高い評価があった。反面、寮生からは、参加しにくいとの指摘もあった。今後の対応は。

A 推進協議会 で検討

町長 山崎英樹

外の眼の指摘どおり、子供たちが生命地域に相応しい佇まいを保った町にしていく。

① 高校のオープンキャンパス等で時期変更は難しい。

② 専門家の意見を聞きながら対応する。

議員の提案は、今後キラリ！ドリームアップ推進協議会の中で一緒に考えていきたい。

③ 学習支援館最初の高3が卒業し、今まさに結果がでる時期だ。保護者の送迎や様々な方々に支えられた。寮生の対応にも新年度から対策を講じる。

※ギャンプチーム
海外で主流の秋入学に日本の大学が移行した場合に生じる「高校卒業から大学入学までの半年の空白期間のこと」。



飯南高校